

## 多数の遺物が出土

今回の調査ではコンテナ 30 箱以上もの遺物が出土しました。土師質土器が大半を占めています。形を復元できるものが少なく、儀式に使用するために意図的に壊して廃棄した可能性があります。中国製の磁器や岡山県の備前焼、愛知県の瀬戸焼など各地の陶磁器も出土しており、交易によって手に入れていたようです。

また、出土した陶磁器の時期はほとんどが 16 世紀後半のもので、長宗我部元親が活躍した時代にあたります。

他にも、鉄滓や砥石のかけら、漁労具である土錘等も出土しており、城での生活の様子が想像できます。



青磁盤



土師質土器

## 4. まとめ

今回の調査は、切岸周辺・虎口・東張出部の 3ヶ所に焦点をあてて行いました。その結果、計画的かつ防御性に優れた建物配置など、伝家老屋敷曲輪の使われ方についてある程度明らかにすることができました。

今後、これらの成果を検討し、伝家老屋敷曲輪の性格を位置づけるとともに、岡豊城跡全体の調査を進めていく予定です。

## 5. おわりに

今回の調査にあたり、地権者の方をはじめ、多くの方々にご支援・ご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

今後とも文化財調査へのご理解・ご協力をお願いいたします。

## 用語解説

曲輪：山城の中で、平坦に加工した場所

虎口：曲輪へ侵入する敵を阻むために作られた入口

切岸：尾根を人工的に崖状に切って登りにくくした場所

鉄滓：鍛冶の際に出た不純物の多い鉄の塊